

Title	目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2013
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.105, No.2 (2013. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	ヨーゼフ・フルンケース教授退任記念論文集
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01050002--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ヨーゼフ・フルンケース教授退任記念論文集

目次

(I) ヨーゼフ・フルンケース教授略歴・主要著作目録

- 1 遊戯衝動とハビトゥス——シラーの美学論によるカント的義務の克服
香田芳樹
-
- 47 不在と在の二重性 平田栄一郎
- 61 人間の言語から物の言語へ——ホーフマンスタール「手紙」再考
大宮勘一郎
- 82 競作、評価、投票——日本の文学賞 メヒティルト・ドゥッペル＝高山
- 104 「見立て」——もう一つの記号論的实践？ ヴァルター・ループレヒター
- 129 1983年、あるいは1995年？——ドイツ・ポップ文学の時代区分について
マルクス・ヨッホ
- 142 E.A. ポーの「黒猫」とP. ツェラーンの「今日と明日」の解釈をめぐる
考察 三ッ石祐子
- 168 エルンスト・ユンガーの晩年の旅 トーマス・ペーカー
- 180 ウイトゲンシュタインの色彩観再発見 糸川麻里生
- 202 ニーチェの自己技術——『この人を見よ』について 川島建太郎
- 220 1800年頃の声について——E.T.A. ホフマン『黄金の壺』をめぐる考察
小林和貴子
- 246 ヴァッケンローダー『芸術を愛する一修道僧の真情の披瀝』についての
若干の考察 和泉雅人
- 260 フンボルト言語哲学と歴史認識論の可能性 神田順司
- 281 今日のカントとスコラ哲学の関係——新たな評価のための予備的考察
ヴォルフガング・エアトル
- 300 カノン形成の実践としてのアンソロジー編纂
——ドイツ語圏文学アンソロジーと言語ナショナリズム 安川晴基